



## 2026年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年1月14日

上場会社名 株式会社サイエンスアーツ 上場取引所 東  
 コード番号 4412 URL https://science-arts.com  
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 平岡 竜太郎  
 問合せ先責任者（役職名） 取締役管理本部長（氏名） 松田 拓也（TEL）03(6825)0619  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

## 1. 2026年8月期第1四半期の業績（2025年9月1日～2025年11月30日）

## （1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年8月期第1四半期	515	51.1	56	557.1	54	—	47	—
2025年8月期第1四半期	340	12.0	8	—	△6	—	△5	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
		円 銭
2026年8月期第1四半期	5.89	5.80
2025年8月期第1四半期	△0.77	—

（注）2025年8月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

## （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
		百万円	百万円
2026年8月期第1四半期	2,181	1,443	66.2
2025年8月期	2,077	1,393	67.1

（参考）自己資本 2026年8月期第1四半期 1,443百万円 2025年8月期 1,393百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年8月期	—	—	—	—	—
2026年8月期（予想）	—	0.00	—	1.00	1.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2026年8月期の業績予想（2025年9月1日～2026年8月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,069	25.1	150	40.0	148	60.7	120	7.5	14.90

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年8月期1Q	8,219,500株	2025年8月期	8,219,500株
② 期末自己株式数	2026年8月期1Q	121,088株	2025年8月期	123,088株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年8月期1Q	8,097,885株	2025年8月期1Q	7,085,598株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なることがあります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(会計上の見積りの変更)	6
(セグメント情報等)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢・所得環境が改善するなか、各種政策の効果もあり緩やかな回復が見られましたが、米国の関税政策や為替相場の変動、長引く物価上昇による個人消費の伸び悩み、不安定な国際情勢等により、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社が事業展開する国内のソフトウェア市場におきましては、働き方改革や人手不足の解消などの課題解決に向けコミュニケーションの促進や業務の自動化・効率化につながるソフトウェアの導入や生成AIの活用による機能強化や高付加価値化が進み、2025年度は3兆628億円※1が見込まれております。また、フロントラインワーカーが働く最前線の現場においては、法人向けモバイル通信端末市場の拡大、AIや画像認識等の精度向上、ウェアラブルカメラ等ハードウェアの開発と導入コストの低減、5Gの普及による映像等大容量データの活用など、様々な分野のイノベーションの発展に伴い、さらなるDX化の拡大が期待されます。当社の提供するサービス「Buddycom」の国内における潜在市場規模については、約1,900億円と推計※2しております。当社は「フロントラインワーカーに未来のDXを提供し、明るく笑顔で働ける社会の力となる」ことをミッションに掲げ、「フロントラインワーカーをつなげるライブコミュニケーションプラットフォーム」の新たな市場の創出を図りながら、開発・販売を行ってまいります。

このような経営環境のもと、当社の主力サービスであるBuddycomの開発及び販売に注力いたしました。売上高は順調に推移した一方、Buddycomの開発及び販売強化のための人員増加による人件費の増加、知名度向上のための広告宣伝費の増加、本社移転に伴って利用不能となる固定資産の耐用年数短縮による減価償却費の増加等により、販売費及び一般管理費も増加いたしました。

以上の結果、当第1四半期累計期間における売上高は515,133千円（前年同期比51.1%増）、営業利益は56,558千円（前年同期比557.1%増）、経常利益は54,864千円（前年同期経常損失6,195千円）、四半期純利益は47,656千円（前年同期四半期純損失5,474千円）となりました。

※1 株式会社富士キメラ総研「ソフトウェアビジネス新市場 2025年版」（2025年7月）

※2 国内における全ての潜在顧客、フロントラインワーカーに導入された場合の、顧客による年間支出総金額。  
（日本のフロントラインワーカー人口（2025年4月の総務省統計局「2025年度 労働力調査年報」より当社推計）×ID当たりの平均年間課金額）

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

## (Buddycom事業)

Buddycom事業におきましては、マーケティング強化による知名度の向上、注力業界向け施策実施、代理店営業力の強化等により契約社数は増加し、当第1四半期会計期間末の契約社数は1,616社（前事業年度末1,562社）となり、ARR※は1,133,550千円（前事業年度末1,068,797千円）となりました。以上の結果、当第1四半期累計期間における、Buddycom利用料売上が277,566千円（前年同期比43.1%増）、アクセサリ売上が235,331千円（前年同期比61.6%増）、オンプレミス等の新製品・サービスの売上が2,160千円となり、セグメント売上高は515,058千円（前年同期比51.6%増）、セグメント利益は56,497千円（前年同期比656.7%増）となりました。

※ARR：Annual Recurring Revenueの略称。各期末月のBuddycom利用料売上に12倍して算出。

## (その他)

ALTIBASE事業を「その他」に含めております。ALTIBASE事業については、積極的には展開しない方針であり、当第1四半期累計期間におけるその他の売上高は75千円（前年同期比94.3%減）となり、セグメント利益は61千円（前年同期比94.6%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第1四半期会計期間末における総資産につきましては、前事業年度末に比べ104,011千円増加し、2,181,818千円となりました。

これは主に、前払費用の減少(前事業年度末比15,062千円減)等はありませんでしたが、本社オフィスの移転に伴う敷金の増加(前事業年度末比119,172千円増)等によるものであります。

(負債)

当第1四半期会計期間末における負債につきましては、前事業年度末に比べ54,654千円増加し、738,489千円となりました。

これは主に、未払法人税等の減少(前事業年度末比24,586千円減)、未払消費税等の減少(前事業年度末比19,440千円減)等はありませんでしたが、売上高が順調に推移したことによる前受収益の増加(前事業年度末比73,798千円増)、買掛金の増加(前事業年度末比27,481千円増)等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産につきましては、前事業年度末に比べ49,356千円増加し、1,443,329千円となりました。

これは主に、四半期純利益計上による利益剰余金の増加(前事業年度末比47,656千円増)等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年8月期の通期業績予想につきましては、2025年10月15日の「2025年8月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年8月31日)	当第1四半期会計期間 (2025年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,579,273	1,586,138
売掛金	151,513	142,252
商品	60,042	72,875
貯蔵品	8	12
その他	43,790	28,804
流動資産合計	1,834,628	1,830,082
固定資産		
有形固定資産	109,690	98,507
投資その他の資産	133,487	253,227
固定資産合計	243,178	351,735
資産合計	2,077,806	2,181,818
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	40,193	67,675
1年内返済予定の長期借入金	40,137	37,938
未払法人税等	36,663	12,077
賞与引当金	—	3,629
前受収益	370,552	444,351
その他	123,143	102,630
流動負債合計	610,690	668,302
固定負債		
資産除去債務	46,049	46,341
長期借入金	27,095	23,846
固定負債合計	73,144	70,187
負債合計	683,834	738,489
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	450,894	450,894
資本剰余金	1,188,141	1,189,785
利益剰余金	△241,584	△193,927
自己株式	△3,479	△3,422
株主資本合計	1,393,972	1,443,329
純資産合計	1,393,972	1,443,329
負債純資産合計	2,077,806	2,181,818

## (2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)
売上高	340,978	515,133
売上原価	131,335	193,579
売上総利益	209,643	321,554
販売費及び一般管理費	201,036	264,995
営業利益	8,606	56,558
営業外収益		
受取利息	16	47
その他	2	0
営業外収益合計	18	48
営業外費用		
株式交付費	14,011	—
支払利息	406	349
為替差損	400	1,355
その他	2	37
営業外費用合計	14,821	1,742
経常利益又は経常損失(△)	△6,195	54,864
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△6,195	54,864
法人税、住民税及び事業税	572	7,805
法人税等調整額	△1,294	△597
法人税等合計	△721	7,207
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△5,474	47,656

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

当第1四半期会計期間において、本社を移転することに伴って利用不能となる固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第1四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益は7,848千円減少しております。

(セグメント情報等)

前第1四半期累計期間(自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報(単位:千円)

	報告セグメント		その他 (注)1	合計	調整額	四半期損益 計算書計上 額(注)2
	Buddycom 事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	339,653	339,653	1,325	340,978	—	340,978
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	339,653	339,653	1,325	340,978	—	340,978
セグメント利益	7,466	7,466	1,140	8,606	—	8,606

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ALTIBASE事業であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期累計期間(自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報(単位:千円)

	報告セグメント		その他 (注)1	合計	調整額	四半期損益 計算書計上 額(注)2
	Buddycom 事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	515,058	515,058	75	515,133	—	515,133
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	515,058	515,058	75	515,133	—	515,133
セグメント利益	56,497	56,497	61	56,558	—	56,558

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ALTIBASE事業であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)
減価償却費	3,608千円	12,280千円